

# ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年12月5日時点)

➤ **ウクライナ軍**は、東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)での攻勢が停滞する中、ヘルソン正面やクリミア半島方面への攻撃を継続する一方、**露軍**は、東部で攻勢を強めるとともに、各地への攻撃を継続している模様

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT8月18日)

: 死者約15万人 (「ウ」軍総司令官11月1日)

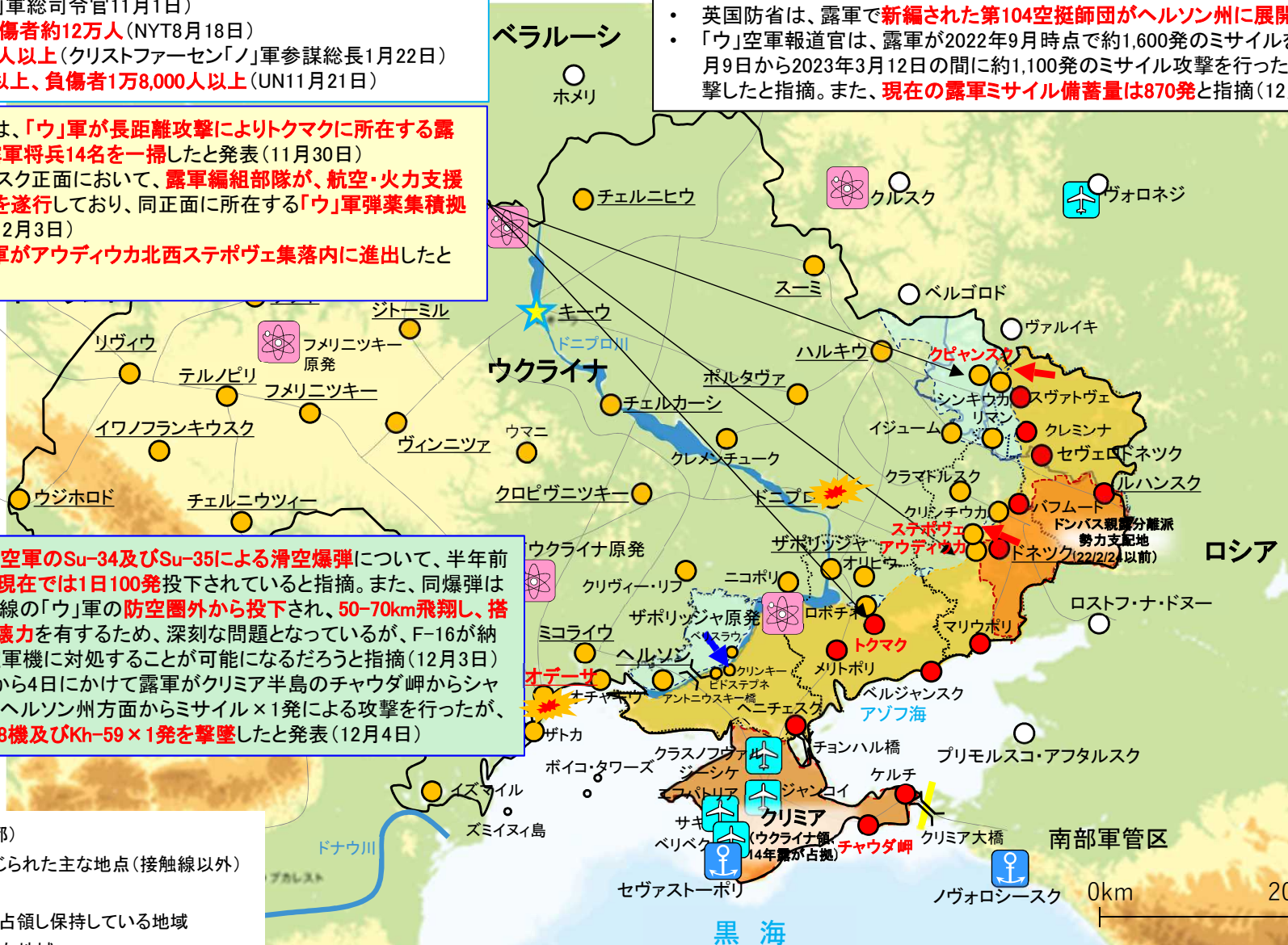
「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT8月18日)

: 死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,000人以上 (UN11月21日)

- 「ウ」のメリトポリ市長は、「ウ」軍が長距離攻撃によりトクマクに所在する露軍司令部を攻撃し、露軍将兵14名を一掃したと発表(11月30日)
- 露国防省は、クピャンスク正面において、露軍編組部隊が、航空・火力支援の下で積極的に作戦を遂行しており、同正面に所在する「ウ」軍弾薬集積拠点を破壊したと発表(12月3日)
- 米戦争研究所は、露軍がアウディウカ北西ステポヴェ集落内に進出したと評価(12月4日)

- カービー米NSC調整官は、露軍が今冬、「ウ」重要エネルギーインフラ破壊を画策しているとした上で、米国が「ウ」軍の防空能力強化に取り組んでいると発言(11月30日)
- 英国防省は、露軍で新編された第104空挺師団がヘルソン州に展開されると指摘(11月30日)
- 「ウ」空軍報道官は、露軍が2022年9月時点で約1,600発のミサイルを備蓄しており、2022年9月9日から2023年3月12日の間に約1,100発のミサイル攻撃を行ったが、「ウ」軍は750発を迎撃したと指摘。また、現在の露軍ミサイル備蓄量は870発と指摘(12月4日)



- 「ウ」空軍報道官は、露空軍のSu-34及びSu-35による滑空爆弾について、半年前には数発だったものが現在では1日100発投下されていると指摘。また、同爆弾は精密ではないものの前線の「ウ」軍の防空圏外から投下され、50-70km飛翔し、搭載重量500kgで強い破壊力を有するため、深刻な問題となっているが、F-16が納入されれば有効に露空軍機に対処することが可能になると指摘(12月3日)
- 「ウ」空軍は、12月3日から4日にかけて露軍がクリミア半島のチャウダ岬からシャヘッド無人機×23機及びヘルソン州方面からミサイル×1発による攻撃を行ったが、「ウ」軍が同無人機×18機及びKh-59×1発を撃墜したと発表(12月4日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等